

3. 発生予察情報の発表状況

1) 注意報の内容

種 類	発 令 月 日	対 象 作 物	対 象 病 害 虫	情 報 内 容
注意報第1号	5月10日	ばれいしょ	疫病	<p>1. 発生地域：県下全域</p> <p>2. 発生時期：5月中旬～収穫期</p> <p>3. 発生程度：多</p> <p>4. 根拠</p> <p>①4月8日愛野町で初発を認め、4月下旬の県下の発生圃場率4%であったが、5月上旬の着苗期における島原半島での調査では発生圃場率23%と急激に増加した。</p> <p>②4月末～5月上旬の不順な天候により、各地で発生が認められ、広域に蔓延する恐れがある。</p> <p>③気象予報によると、5月中旬の降水量は多い見込みである。</p>
注意報第2号	6月2日	いちご	うどんこ病(育苗床)	<p>1. 発生地域：県下全域</p> <p>2. 発生程度：多</p> <p>3. 根拠</p> <p>①5月下旬の巡回調査の結果、多発圃場がみられ、発生圃場率81%（前年17%）、発病株率32%（前年17%）といずれも高い。</p> <p>②前作本圃でのうどんこ病の発生が多かった。</p>
注意報第3号	7月2日	早期水稲 普通期水稲早植	穂いもち 葉いもち	<p>1. 発生地域：県下全域の早期水稲及び普通期水稲早植</p> <p>2. 発生程度：やや多</p> <p>3. 根拠</p> <p>①6月22～25日の巡回調査の結果、早期水稲での発生圃場率は31%（前年8%）、発病株率11%（前年0.2%）であり、6月30日の調査では発生圃場率は43%ですり込み状圃場も見られた</p> <p>②普通期水稲早植の一部でも発生がみられる。</p> <p>③6月中旬以降の日照時間が少なく、いもち病の発生に好適な曇雨天が続いており、水稲は軟弱徒長気味である。</p> <p>④気象予報によると、7月上旬の平均気温は平年並、降水量は平年より多く、日照時間は少ない見込みである。</p>
注意報第4号	7月8日	水稲	コブノメイガ	<p>1. 発生地域：志岐、対馬を除く県下全域</p> <p>2. 発生程度：多</p> <p>3. 根拠</p> <p>①7月2日～7月4日にかけて飛来があったとみられ、蛍光灯誘殺箱（諫早市貝津）における誘殺数はここ数年間で最も多い。</p> <p>②7月6日、県予察圃場早期水稲における10㎡当たり成虫が30頭以上の地区も多数認められた。</p> <p>③曇雨天が続き、水稲は軟弱徒長気味である。</p>

種 類	発令月日	対象作物	対象病虫害	情 報 内 容
注意報第5号	8月3日	水稻	いもち病(穂いもち)	<p>1. 発地域域：県下全域</p> <p>2. 発生程度：やや多</p> <p>3. 根拠</p> <p>①7月下旬の巡回調査の結果、普通期水稻での発生圃場率は39%（前年29%）、発病株率15%（前年3.8%）であり、一部にずり込み圃場がみられた。</p> <p>②日照時間少なく、いもち病の発生に好適な曇雨天が続いており、水稻は軟弱徒長気味である。</p> <p>③気象予報によると、8月上旬の平均気温は平年並、降水量は平年より多く、日照時間は少ない見込みである。</p>
注意報第6号	8月3日	水稻	コブノメイガ	<p>1. 発地域域：県下全域</p> <p>2. 発生程度：多</p> <p>3. 根拠</p> <p>①7月2日～4日と7月14～17日に飛来があり、蛍光灯誘殺箱（諫早市貝津）における誘殺数はここ数年間で最も多い。</p> <p>②7月下旬の巡回調査の結果、幼虫による被害葉発生圃場率は92%（前年53%）、被害葉発生株率は44%（前年2.4%）であり、被害葉発生株率が100%の圃場も多くみられた。</p> <p>③曇雨天が続き、水稻は軟弱徒長気味である。</p>
注意報第7号	10月18日	いちご	うどんこ病	<p>1. 発地域域：県下全域</p> <p>2. 発生程度：多</p> <p>3. 根拠</p> <p>①育苗床での発生が例年に比べて多かった。</p> <p>②10月中旬の巡回調査の結果、一部多発圃場がみられ、発生圃場率は33%（前年7%）、発病株率は3.7%（前年3.9%）と例年に比べ高かった。</p> <p>③多発圃場の出現時期が例年に比べて早い。</p> <p>④本病に対して弱い「とよのか」の栽培面積が多い。</p>
注意報第8号	12月24日	いちご	うどんこ病	<p>1. 発地域域：県下全域</p> <p>2. 発生程度：多</p> <p>3. 根拠</p> <p>①病勢の進展が著しいので、薬剤が葉柄、果実に十分に付着するように散布量を多くする。</p> <p>②病果は伝染源となるのでハウス内及びその周辺に放置しない。</p> <p>③同一薬剤を連続散布すると薬剤耐性菌が発生する恐れがあるので連用は避ける（県防除基準122～228ページを参照）。</p>

2) 警報の内容

種 類	発令月日	対象作物	対象病害虫	情 報 内 容
警報1号	8月19日	水稻	いもち病(穂いもち)	<p>1. 発生地域：県下全域</p> <p>2. 発生時期：8月下旬～9月下旬</p> <p>3. 発生程度：多</p> <p>4. 根拠</p> <p>①普通期水稻の穂いもちは7月以降増加し、8月前半の巡回調査の結果、発生圃場率は41%、発病株率は17%であった。</p> <p>②8月16～17日に行った一斉調査の結果、発生圃場率は50%、発病株率は19%であり、進行型病斑もみられた。</p> <p>③8月18日付けの週間天気予報によると、向こう1週間の半ば過ぎまでは曇りや雨の日が多く、その後も、にわか雨が降りやすい見込みである。</p> <p>④増殖性品種（ヒノヒカリ、ユメヒカリ）の栽培面積が43%を占めている。</p>